CASBEE® 京都-新築

評 価 ソ フ ト（標準システム）

バージョン　CASBEE京都-新築2018（v.1.0）
■使用評価マニュアル：　CASBEE-京都-建築(新築)2018年版

1）概要入力

① 建物概要

■ 建物名称	（仮称）下松屋町共同住宅新築工事		
■ 建設地・地域区分	京都府京都市中京区金屋通押小路下る下松屋町720,720-2,720-6,720-7,720-8,720-9、京都府京都市中京区新町通		6地域
■ 地域・地区	市街化区域、準防火地域		
■ 竣工年（予定/竣工）	2022年8月		竣工
■ 敷地面積	606.78	㎡	
■ 建築面積	394.35	㎡	
■ 延床面積	3,478.81	㎡	
■ 建物用途名	共同住宅		
	集合住宅,		
■ 階数	地上11F		
■ 構造	RC造		
■ 平均居住人員	125	人（想定値）	
■ 年間使用時間	8,760	時間/年（想定値）	

② 評価の実施

■ 評価の実施	2021年2月1日		実施設計段階
■ 作成者	金高　智義		
■ 確認日	2021年2月1日		
■ 確認者	金高　智義		
■LCCO2の計算	標準計算	→LCCO2算定条件シート（標準計算）を入力	

2）個別用途入力

①用途別延床面積

事務所	0.00	㎡	事務所		㎡
			官公庁		㎡
学校	0.00	㎡	幼稚園・保育園		㎡
			小・中学校		㎡
			小・中学校（北海道以外）		㎡
			高校		㎡
			大学・専門学校		㎡
物販店	0.00	㎡	デパート・スーパー		㎡
			その他物販		㎡
飲食店		㎡			
集会所	0.00	㎡	劇場・ホール		㎡
			展示施設		㎡
			スポーツ施設		㎡
工場		㎡	うち省エネ計画対象面積		㎡
病院		㎡			
ホテル		㎡			
非住宅　小計	0.00	㎡			
集合住宅	3,478.81	㎡	専用部	2611.44	㎡
			共用部	867.37	㎡

② 住居・宿泊部分の比率

■病院の延床面積のうち，病室部分の床面積の比率	
■ホテルの延床面積のうち，宿泊部分の床面積の比率	
■集合住宅の延床面積のうち，住戸部分の床面積の比率	0.75

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 |使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018（v.1.0）

1-1 建物概要

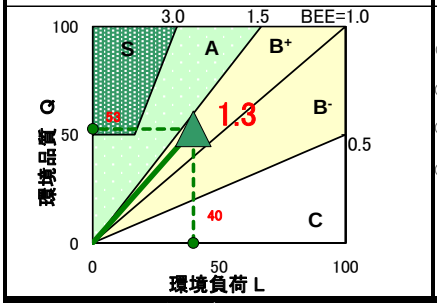
建物名称	（仮称）下松屋町共同住宅新築工事	階数	地上11F
建設地	京都府京都市中京区堀川通押小路下る下松屋町735,735-2,735-4,735-17,735-18,735-19 京都府京都市中京区堀川通押小路下る中之町411-1	構造	RC造
用途地域	市街化区域、準防火地域	平均居住人員	125 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年（想定値）
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年8月 竣工	評価の実施日	2021年2月1日
敷地面積	606.78 ㎡	作成者	金高 智義
建築面積	394.35 ㎡	確認日	2021年2月1日
延床面積	3,478.81 ㎡	確認者	金高 智義

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

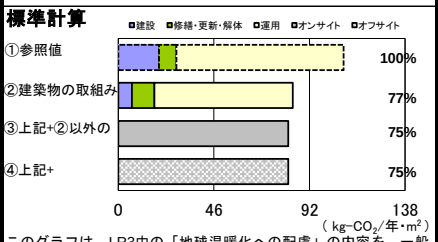
BEE =1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



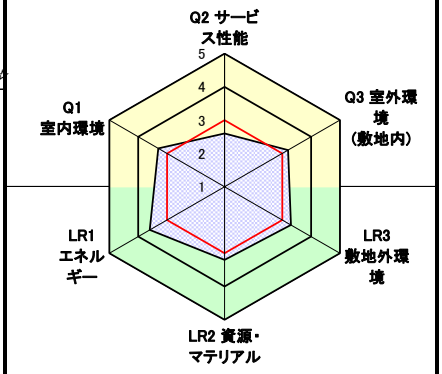
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは，LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を，一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

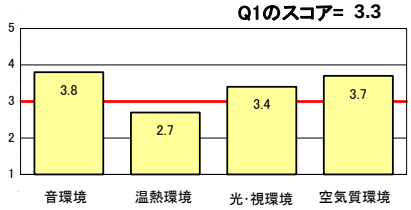
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



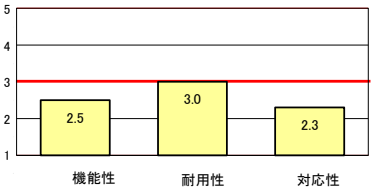
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.1

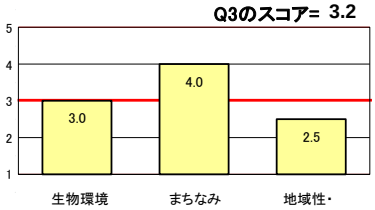
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.3



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.6

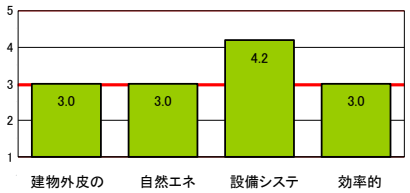


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 3.2

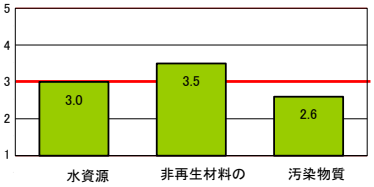


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.4

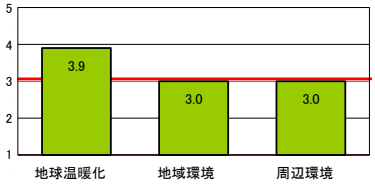
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.6



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.2



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.3



3 設計上の配慮事項

総合

周辺はビジネス街として発展しており、多くの人が行き交う地域である。周辺地域に調和して、暮らしやすい住環境を形成できるような計画となっている。

その他

特になし

Q1 室内環境

開口部や界壁、界床は遮音性能が高く、騒音や衝撃を防ぐことができる。F☆☆☆☆の建材を使用、また開閉可能な窓が十分に設けられており、室内の空気を健全に保つことができるよう配慮している。

Q2 サービス性能

耐用年数の長い仕上げ材、空調・給排水配管を使用している。また、構造躯体の劣化を軽減する対策が講じられており、建物の長寿化を図っている。

Q3 室外環境（敷地内）

地域の生態系に悪影響を及ぼす外来種を使用しておらず、適切な対策を行っている。敷地周囲には目隠しフェンスやメッシュフェンスを設置して、防犯性を高めている。

LR1 エネルギー

LED照明により、設備システムの高効率化を図っている。

LR2 資源・マテリアル

リサイクル材(躯体材料以外)を使用して、環境配慮に努めている。躯体と仕上げ材は容易に分別可能であり、解体時におけるリサイクルを促進する対策が取られている。

LR3 敷地外環境

自転車置場や駐車場を確保しており、建物の運用時に交通負荷が発生しないよう取組みを行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 京都 新築

バージョン CASBEE京都-新築 独自システム2018(v.1.0)

独自システム評価結果

1 建物概要

建物名称	(仮称)下松屋町共同住宅新築工事	BEE	1.3	B+ ★★★
延床面積	3,478.81 ㎡	使用CASBEE評価マニュ	CASBEE-京都-建築(新築)2018年版	
用途	共同住宅 集合住宅,	使用CASBEE評価ソフト	CASBEE京都-新築2018(v.1.0)	

2 重点項目への取組度

キーワード	取組度
1 大切に使う	★★★★
2 ともに住まう	★★
3 自然からつくる	★★★

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

1 大切に使う　合計点 29 /41

■長寿命化　合計点 14 /20

◇メンテナンスの容易性

		スコア
Q2/ 3.3.1	空調配管の更新性	3
Q2/ 3.3.2	給排水管の更新性	3
Q2/ 3.3.3	電気配線の更新性	3
Q2/ 3.3.4	通信配線の更新性	3
Q2/ 3.3.5	設備機器の更新性	3

(注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される)

構造部材を痛めることなく更新・修繕ができるようになっている。

◇物理的長寿命

		スコア
Q2/ 2.2.1	躯体材料の耐用年数	5

構造躯体の劣化を軽減する対策が講じられており、建物の長寿化を図っている。

◇社会的長寿命

		スコア
Q2/ 1.1.3	バリアフリー計画	3
Q2/ 3.1.2	空間の形状・自由さ	3

設備・空間のプランニングの自由度がある。

■省資源　合計点 14 /20

		スコア
LR2/ 2.1	材料使用量の削減	2
LR2/ 2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3
LR2/ 2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5
LR2/ 2.6	部材の再利用可能性向上への取組	4

躯体材料以外においてリサイクル材を使用しており、環境配慮に努めている。
躯体と仕上げ材は容易に分別可能であり、解体時におけるリサイクルを促進する対策が取られている。

◆独自加点項目　合計点 1 /1

LR2/ 2.1	材料使用量の削減	主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。	対象外
LR2/ 2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	対象外
LR2/ 2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	○

2 ともに住まう　合計点 21 /42

■自然とともに住まう　合計点 8 /15

◇自然を感じられる計画

		スコア
Q2/ 1.2.1	広さ感・景観	3
Q3/ 1	生物環境の保全と創出	3
Q3/ 3.2	敷地内温熱環境の向上	2

住居の天井高を2.3m以上確保しており、ゆとりある空間を感じることができる。

■地域とともに住まう　合計点 9 /15

◇地域環境やコミュニティーへの配慮

		スコア
Q3/ 3.1	地域性への配慮、快適性の向上	3
LR3/ 2.2	温熱環境悪化の改善	3
LR3/ 3.3.2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3

建築物の外壁窓等を通しての熱損失の防止、空気調和機器等のエネルギーの効率的利用のための措置を講じている。

■歴史とともに住まう　合計点 4 /10

◇歴史性への配慮

		スコア
Q2/ 1.2.3	内装計画	1
Q3/ 3.1	地域性への配慮、快適性の向上	3

敷地周囲には目隠しフェンスやメッシュフェンスを設置して、防犯性を高めている。

◆独自加点項目　合計点 0 /2

Q2/ 1.2.1	広さ感・景観	京都重点項目による加点により、レベル5を超える。
LR3/ 3.3.2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している, または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを, 1以上実施している。

3 自然からつくる　合計点 30 /50

■自然材料の利用　合計点 7 /15

		スコア
Q2/ 1.2.3	内装計画	1
Q3/ 3.1	地域性への配慮、快適性の向上	3
LR2/ 2.5	持続可能な森林から産出された木材	3

居室の天井下地には地域産木材を使用している。

■自然環境の利用　合計点 21 /30

		スコア
Q1/ 3.1.1	昼光率	5
Q1/ 3.1.3	昼光利用設備	3
Q1/ 3.2.1	昼光制御	3
Q1/ 4.2.2	自然換気性能	4
LR1/ 2	自然エネルギー利用	3
LR2/ 1.2.1	雨水利用システム	3

共用部や居室には、室内の明るさを十分に保つことのできる大きさの窓が設けられている。
居室の窓は開閉が可能であり、室内の空気を健全に保つことができるよう配慮している。

◆独自加点項目　合計点 2 /5

LR2/ 2.5	持続可能な森林から産出された木材	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。 ○
Q1/ 3.1.3	昼光利用設備	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ, 軒, 庇等, 推奨内容の昼光利用設備を採用している。
Q1/ 3.2.1	昼光制御	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ, 軒, 庇等, 推奨内容の昼光利用設備を採用している。
LR1/ 3	設備システムの高効率化	評価する取組みのうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニュメントの計画を除く) 上記の内容に加え、利用量が15MJ/㎡・年以上となる場合。 ○

4 低炭素景観の創出に関する評価

- ☐ Q1/3.1.3 昼光利用設備
- ☐ Q1/3.2.1 昼光制御
- ☑ Q3/1 生物環境の保全と創出
- ☐ Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上
- ☐ LR3/2.2 温熱環境悪化の改善
- ☐ LR3/3.3.2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策

低炭素景観 取組数 1／6項目

5 ライフサイクルCO_2とCO_2削減率

ライフサイクルCO_2	81.88	kg-CO_2/年㎡
(ライフサイクルCO_2参照値)	108.51	kg-CO_2/年㎡
CO_2削減量	-26.63	kg-CO_2/年㎡

ライフサイクルCO_2削減率 +24.5%

6 ウッドマイレージCO_2とCO_2削減率

ウッドマイレージCO_2		kg-CO_2
CO_2削減効果		kg-CO_2

ウッドマイレージCO_2削減率 0%

:「ウッドマイレージ計算書」から転　:自由記述入力欄

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)下松屋町共同住宅新築工事

■使用評価マニュ: CASBEE-京都-建築(新築)2018年
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境					0.40		-	3.3
1 音環境				4.0	0.15	3.7	1.00	3.8
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音				5.0	0.50	4.5	0.50	
1 開口部遮音性能			T-2に相当	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能			D-50以下とする	-	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			Lr-45に相当	-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			Lr-45に相当	-	-	5.0	0.20	
1.3 吸音				-	-	-	-	
2 温熱環境				2.0	0.35	3.0	1.00	2.7
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	1.00	
1 室温				3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能				3.0	0.38	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				3.3	0.25	3.5	1.00	3.4
3.1 昼光利用				4.2	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率	●自然	A(全国版準用)	【共用部分】2.70%【住居部分】3.70%	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				3.6	0.25	3.7	1.00	3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆の建材を使用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.40	3.3	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)	2階Aタイプ LDK 居室面積26.42m2(1/8の面積3.30m2) 窓面積3.40m2	-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1 CO_2の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御				-	-	-	-	
Q2 サービス性能				–	0.30	-	-	2.6
1 機能性				2.4	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性				-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)	●とも	C(独自加点)		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3 内装計画	●自然	D(独自基準)		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)	住宅性能表示基準「3. 劣化の軽減に関すること」等級3	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			ビニルクロス貼 20年	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			2種以上にBを使用、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	
3 電気設備				3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.0	0.30	2.2	1.00	2.3
3.1 空間のゆとり				-	-	2.4	0.50	
1 階高のゆとり				-	-	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	-	2.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				–	0.30	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出	●とも	A'(全国版準用)		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	○	C(独自加点) D(独自基準)	美観地区である	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮，快適性の向上	●とも，自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.4
LR1 エネルギー				–	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.89	4.2	0.50	-	-	4.2
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				–	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	外装ﾀｲﾙ(主体部分)、磁器質ﾀｲﾙ(ﾊﾞﾙｺﾆｰ)、地域産木材(居室天井下地)	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	PB+LGS、外壁側GL工法	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.6	0.20	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.5	0.70	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				2.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				–	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率77%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			駐輪場・駐車場・ｻｰﾋﾞｽ用駐車場の確保、出入口は交差点付近を避けている	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	1.00	-	-	
2 振動				-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-		
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目　　重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」ともに使う 「自然」:自然からつくる

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 （仮称）下松屋町共同住宅新築工事

計画上の配慮事項	
総合	周辺はビジネス街として発展しており、多くの人が行き交う地域である。周辺地域に調和して、暮らしやすい住環境を形成できるような計画となっている。
Q1 室内環境	開口部や界壁、界床は遮音性能が高く、騒音や衝撃を防ぐことができる。F☆☆☆☆の建材を使用、また開閉可能な窓が十分に設けられており、室内の空気を健全に保つことができるよう配慮している。
Q2 サービス性能	耐用年数の長い仕上げ材、空調・給排水配管を使用している。また、構造躯体の劣化を軽減する対策が講じられており、建物の長寿化を図っている。
Q3 室外環境（敷地内）	地域の生態系に悪影響を及ぼす外来種を使用しておらず、適切な対策を行っている。敷地周囲には目隠しフェンスやメッシュフェンスを設置して、防犯性を高めている。
LR1 エネルギー	LED照明により、設備システムの高効率化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	リサイクル材(躯体材料以外)を使用して、環境配慮に努めている。躯体と仕上げ材は容易に分別可能であり、解体時におけるリサイクルを促進する対策が取られている。
LR3 敷地外環境	自転車置場や駐車場を確保しており、建物の運用時に交通負荷が発生しないよう取組みを行っている。
その他	特になし